

## 知床五湖の利用のあり方協議会（第1回）議事録(案)

1. 場所：ウトロ漁村センター

2. 日時：平成21年2月19日 13:00～15:00

3. 出席者：別紙のとおり

### 4. 配布資料

資料1 知床五湖の利用のあり方協議会について

資料2 知床五湖の利用適正化の推進について

資料3 協議会のスケジュール

資料4 ヒグマ活動期の利用のあり方について

## 5. 議事概要：

(1) 開会挨拶：環境省釧路自然環境事務所 則久次長

### (2) 議題1. 知床五湖の利用のあり方協議会について

**環境省**：資料1に基づき、「知床五湖の利用のあり方協議会」について説明。

**知床エコツーリズム推進協議会**：資料1の5. その他に「利用適正化計画検討協議会（仮称）」に移行するとあるが、別の会議を立ち上げるのか。

**環境省**：別のものを作るのではなく、この体制を移行することを考えている。必要に応じて設置要綱等を定める。

**環境省**：協議会については、このような形で進めることでよろしいか。

**全員**：了承。

### (3) 議題2. 知床五湖の利用適正化の推進について

**環境省**：資料2に基づき、知床五湖の利用適正化の内容について説明。

**NPO 法人知床斜里町観光協会**：ヒグマ活動期最大8グループの算出根拠を教えて欲しい。

**環境省**：ヒグマ出没時の避難誘導を想定し、安全性を確保できるのが8グループ程度であろうと現時点では考えている。

**知床財団**：何グループという数字の確証はないが、確実性の高い方法で実際にやってみて、状況に応じて見直して行くことが考えられる。

**NPO 法人知床斜里町観光協会**：ヒグマ活動期は1日の最大利用人数を設定しないのか。

**環境省**：1グループを10人程度であること、同時滞在グループが8グループであることから、計算するとおおよそ250人/日程度となる。

**ウトロ自治会**：自治会としては、これまでの話し合いの結果は尊重するが、地元の人が孫を連れて行って写真を撮るなどのささやかな楽しみを奪われてしまったという感想である。もし会議自体がガイドシステムの話ばかりであれば、自治会として参加しなくてもよいとの意見もでている。地元が離れてしまうようなものではなく、例えば地元の特別枠を設けるなどの検討を行って欲しい。

**環境省**：地元の方を排除するという考えではないが、システムの中でできるだけ安全に利用していただくということである。これを崩さずに地元の方に利用いただけるような方策があるかどうか検討を進めたい。

**ウトロ地域協議会**：ガイドはお金をもらって職業としてやっている人であって、そうでない地元の人がどうやってガイドと同じように五湖を利用できるのか、そこを検討していく必要がある。

**環境省**：主旨は十分理解できる。難しい面もあると思うが、今後の検討の中で十分留意しながら進めていきたい。

**ユートピア知床**：利用者負担額は決まっているのか。

**環境省**：受付やレクチャー受講にかかる費用を利用者に負担してもらいたいと考えている。そのため、管理の体制によって、負担額は変わってくる。管理体制を検討するなかで利用者にどのくらいの負担を求めなければならないのかが決まってくる。

**斜里バス**：旅行者への情報周知はどうなっているのか。

**環境省**：まだ、きちんと行っていない。間違った情報の伝え方により知床の観光にデメリットを与えたくない。新しい知床の観光のあり方を伝えていくことが重要と考えており、行政機関だけで行うのではなく、協議会で議論し、協議会として情報の周知を行うことが好ましいと考えている。

**知床エコツーリズム推進協議会**：まずしっかりとした内容を決めることが重要。毎年規制の期間や内容が変わってしまうと、周知することが大変だと感じている。

**環境省**：ヒグマ活動期の終了時期についてご意見伺いたい。7月31日とした場合は、8月1日からは植生保護期になり、沢山の方が利用できるようにはなるが、一方でヒグマが出没した場合は閉鎖の可能性が非常に高くなり、どちらにしたほうが良いかということになる。

**しれとこ・ウトロフォーラム 21**：実際にやってみて期間の見直しはあると思うが、期間を短くするような可能性もあるのか。

**環境省**：毎年変えるのは好ましくないが、もしも全くヒグマがでない状況が続くようであれば、ヒグマ活動期の期間を短く見直すこともありうる。2～3年ぐらいは様子を見ていく必要があるだろう。

**ユートピア知床**：はじめは7月20日くらいまでをヒグマ活動期として実施してもらいたい。告知が遅れると利用者から苦情がでてくる。夏休み時期にかぶらないようにした方がよい。

**しれとこ・ウトロフォーラム 21**：ヒグマ活動期はガイド利用しかできないため、基本的に閉鎖と同じである。公平な利用ができる植生保護期の時期をできるだけ増やして欲しい。7月の末、8月の頭に観光客は増える。増加するときに空けるようにしないと、混乱するのではないかと思う。

**知床財団**：ヒグマ活動期の期間を短くすれば、逆に利用者が増える時期に、閉鎖する可能性が出てしまい、より不安定になるということも踏まえて検討が必要である。

**環境省**：過去数年のデータをみると、7月中は下旬に閉鎖があり、7月下旬を8月と同じように考えるのは問題がある。高架木道の整備を前提として、限定的ではあるが安全で安定的な地上歩道の利用を推進するため、地域の人意見も踏まえ7月31日または8月20日という案を提示させていただいている。ヒグマ活動期をできるだけ短くとのことであるので、7月31日ということで今後の検討を進めていきたい。

**ユートピア知床：**受付でレクチャーをして入れるということだが、当日、その前にルートの巡視は行わないのか。

**知床財団：**ヒグマ活動期に関しては、事前の巡視等を行わずに、ガイドが利用しているなかで状況を把握していくことを考えている。

**環境省：**ヒグマ活動期、植生保護期ともに、巡視などの管理に人手をかければ、それだけコストがかかり利用者に沢山の負担を求めることとなる。安全性の確保と利用者負担の双方の観点から検討をしていく必要がある。

**NPO 法人知床斜里町観光協会：**資料2の別紙の留意事項の記述に関して、翌年度以降は初年度の状況を踏まえ再検討するとあるが、1年で状況が悪いからやめるということになると、今までの議論の意味がなくなる。他の見直しと同じく2~3年は状況を見るべきではないか。

**環境省：**見直しの方法については、今後、この協議会で検討していくことになる。ただし、安全性の問題については、1年目で危険があると判断された場合には、翌年から変更するということもあり得ることは了承して欲しい。

**NPO 法人知床斜里町観光協会：**地上歩道に避難施設のようなものは設けるのか。

**斜里町：**地上歩道に避難施設は設置しない。クマの安全対策については物理的に会わない対策、もう一つはヒグマがいる状況であっても、きちんとした技術をもった人間がいればきちんと対処できるだろうという2本立てで考えている。そういう考えのもとで、高架木道の整備と地上歩道のコントロールを検討してきた。地上歩道に関して構造物の設置による物理的な施設整備での安全対策は、効果も限られ、適切でないと考えている。

**知床民宿協会：**資料2別紙1の留意事項にある2湖から高架木道に上がると書いているが、これは正確に言えば入口→2湖→1湖→高架木道ということではないか。

**環境省：**ご指摘のとおりである。

**知床ガイド協議会：**知床五湖に来る人は、五つの湖を見たいという要求がある。順番は逆でもよいが、一つのルートで五つ見られるようにできないか。

**環境省：**ヒグマ活動期に関しては、安全上、地上歩道と高架木道を繋ぐことは難しい植生保護期はつなぐことができるので、5湖から1湖へという逆回りであれば、5湖から1湖まで見ることはできる。

**知床ガイド協議会：**今ある1湖周辺の園路は完全に廃止するということか。

**環境省：**1湖脇の歩道が現在、利用によって一番荒れている場所であること、高架木道、地上部歩道双方からお互いに利用者が見えてしまうことによる景観上の課題を踏まえ、これまで地域の人に対しても廃止するという説明してきており、その方向で進めたい。

**知床エコツーリズム推進協議会：**例えば2湖から1湖までの道を折り返し利用するというのは不可能か。

**環境省**：地上歩道の利用については、ヒグマへの安全対策、歩道の脇を歩かないことによる環境対策の観点から、一方通行を原則としている。

**知床財団**：往復利用が起こることにより、2つのグループがヒグマを挟み込むことになる危険。運用上、挟み込むことのないようであれば、ここで結論はだせないが妥協点としては考えられる。

**環境省**：ご意見としては1湖から5湖を巡れるようにしたいということに対して、可能性として全くないわけではないので、今後解決策があれば具体的に検討していきたい。その他の点については、資料2の内容を前提に、今後の協議を進めるということではよろしいか？

**全員**：了承

#### (4) 議題3. 協議会のスケジュールについて

**環境省**：資料3に基づき今後のスケジュールについて説明。

**NPO 法人知床斜里町観光協会**：第2回協議会の議題として、施設に関する検討とあるが、最終的に判断する時期はいつなのか示して欲しい。既存のレストハウスの扱いが関係してくる。斜里町にスケジュールや方向性についての確認をお願いしているが出てきていない。

**環境省**：22年の5月までに受付・レクチャー施設を整備するという前提に立つと、今年の3月までに方向性を決定しておく必要がある。それに間に合わなかった場合には、ヒグマ活動期については仮設の施設で対応して、8月1日の植生保護期に間に合わせることを考えたい。

**斜里町**：町のほうでレストハウスを所有しているが、かなり老朽化しており、今回の取組の導入に伴い整理をしていきたい。そのために今のレストハウスをどうしていくのかということについて、個別に相談させていただきたい。

**ユートピア知床**：レストハウスを撤去するというのであれば、今年、来年ということではあまりに期間が短い。余裕をもって協議の場を設けてもらいたい。

**知床エコツーリズム推進協議会**：施設の問題については、駐車場、トイレの問題も含めて、非常に大事な問題である。資料3では4月、5月に予定が組まれていないが、その間も含めて、精力的に調整を進めて欲しい。**環境省**：施設の問題に関しては、相手方との調整という部分がある。すべての部分を協議会で検討するというわけではない。4月5月はなにもしないということではない。

**知床温泉旅館協同組合**：先ほどのスケジュールでいくと仮設のレクチャールームを立て、一方で建設工事を行うということであれば、広いスペースが必要となり、無理があるのでは。

**環境省**：3月頃までにはいろいろな選択肢の中からお示しできるようにして、コントロールの方法からレクチャー施設に必要な機能も含めて議論を行いたい。

**知床ガイド協議会**：ガイド認定を考えると今年の6月までに認定してもらわないと難しい。

五湖にヒグマがいるときに講習するから意味があるのであり、それ以外では意味がない。また知床以外のガイドの方にも周知徹底しないといけない。アウトドア協会、山岳ガイド協会等への周知もお願いしたい。

**環境省：**ガイドの認定に関しては次の議題の方で取り扱いたい。スケジュールについては、今いただいた意見も踏まえて進めていきたい。

#### (5) 議題4. ヒグマ活動期の利用のあり方について

**知床財団：**資料4にもとづき、ヒグマ活動期の利用調整の方法について説明。

**知床ガイド協議会：**ヒグマ出没期間中にヒグマの事故がおきて、お客が死亡した場合、当然ガイドは責任が生じる。ただしこういうシステムをつくったということで、行政にも責任が生じると思われる。そういうことも今のうちから話しておく必要がある。

また利用料については、入るときにも払うというのではなく、ガイドが一旦とりまとめるような方法が必要だと思う。

**北海道網走支庁：**事故時の対応について、はじめに被害者の方と話し合うのは歩道管理者である北海道になると思われる。そのあとガイドや会社の方の責任やそのあとの問題は裁判になる。ただ、利用調整区域などの自然公園法に基づく管理になれば、国の管理になるため、その時の状況によって変わってくると思う。

**環境省：**実際に事故が起きた状況によって、誰の責任が重いのかはかわってくる。ヒグマがいるところに入れようという議論をしているのは、全国的にみて画期的なことである。そういった意味ではじめてのケースであり、管理者ということであれば歩道管理者と土地所有者がからむ問題だが、利用調整地区になった場合は環境省が認可していることになる。それから有料でガイドをしているガイドさんもおり、さまざまなところに責任問題が発生してくる。そこについて今の段階でどうしようにするかというのは決めがたい。どういう管理をするのかによって見極めていきたい。

**知床ガイド協議会：**そういうことへの責任をも考えて体制を構築しているということをきちんとアピールすることが大切である。

**ウトロ地域協議会：**レクチャーや立ち入り認定証の発行は、ガイドが行うのか。

**知床財団：**誰がするかはこれからの議論である。

**環境省：**資料4については、かなり議論の余地があり今回決定できない。3月に場を改めて、皆さんにお声がけをして参加する意思をもたれている方に参加頂き、検討を行いたい。その上で、その内容を次回の協議会の場で協議・決定したいがよろしいか。

**全員：**了承。

#### 6. 閉会挨拶：北海道自然環境課 小林参事

(以上)